

令和5・6年度幼保小接続推進リーダー育成事業

三朝町（三朝小学校区）の取組



令和7年2月6日（木）

三朝町立賀茂保育園

三朝町立みささこども園

三朝町立三朝小学校

三朝町町民課

三朝町教育委員会事務局教育総務課

本日の内容

- 1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組
- 2 幼保小連携コーディネーターの役割
- 3 取組の成果と今後に向けて

1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組



三朝町立三朝小学校
児童数 271名



三朝町立賀茂保育園
園児数 62名



三朝町立みささこども園
園児数 71名



三朝町立竹田保育園
令和5年度末 閉園
園児数10名 (R5年度末)

1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組

(1) 保育担当課と教育委員会で取組の方向性を確認

園・小連絡協議会	実務者会議 (令和5年度～)
<p>【メンバー】 小学校長、学校担当者 各園園長、各園担当者 町民課（保育担当課）担当者 町教委担当者 幼保小連携コーディネーター</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・年2回開催・交流事業についての協議・交流事業の振り返りと次年度へ向けての協議	<p>【メンバー】 推進リーダー、1年生担任、年長児担任 町民課（保育担当課）担当者 町教委担当者 幼保小連携コーディネーター</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・保育参観、授業参観後の協議・架け橋期のカリキュラムの検討・開発

1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組

(1) 保育担当課と教育委員会で取組の方向性を確認

園・小連絡協議会

【メンバー】

小学校長、学校担当者

各園園長、各園担当者

町民課（保育担当課）担当者、町教委担当者

幼保小連携コーディネーター

【内容】

- ・年2回開催
- ・交流事業についての協議
- ・交流事業の振り返りと次年度へ向けての協議
- ・架け橋期のカリキュラムに係る開発者会議（令和5年度）

令和6年度 三朝町園・小連絡協議会交流計画一覧

月	保育園・こども園	三朝小学校	保育士・教職員関係
4	入園の集い(3日)	入学式(10日)	○新1年生の様子を随時参観 ※情報交換は園ごと
5		運動会(18日) ※年長児参加の競技無し	○園・小連絡協議会(1日) ※年間交流計画の確認 ○園小合同研修会(30日)15:00～
6		1年生A組授業研究会(28日)	○1年生授業参観(6日)13:35 園・小連絡協議会実務者会議Ⅰ (6日)15:30～ ※小学校日程調整 →事務局へ →各園へ
7	1年生とのプール交流 ※園が小学校へ行く。 みささこども園(19日) 賀茂保育園(17日)	1年生とのプール交流 ※園が小学校へ行く。 みささこども園(19日) 賀茂保育園(17日)	
8			○プール参観(現場公開)&園オープンワーク(3時～12時) (現場公開後保護者懇話会) みささこども園(7/29～8/2) 賀茂保育園(7/29～8/2) ○園・小連絡協議会実務者会議Ⅱ (8/8) ○初任者研修保育士体験
9	園運動会 賀茂保育園(28日) ※各園は小学校に案内をする。	就学時健診(26日) ※健診は35歳にて(園・校講師)	
10	園運動会 みささこども園(5日) ※各園は小学校に案内をする。	音楽会(11日)小学校体育館 ※小学校はリハ日程を園に知らせる。	
11	小学校1年生生活科秋祭り交流(21日) みささこども園生活発表会(29日) ※小学校にも案内をする。	小学校1年生生活科秋祭り交流(21日) 学校オープン(21・22日) 8:45～14:20	○園・小連絡協議会実務者会議Ⅲ (26日)
12	賀茂保育園生活発表会(7日) ※小学校にも案内をする。 5年生と年長児との交流①(18日) ※小学校が園に出向いて交流	5年生と年長児との交流①(18日) ※小学校が園に出向いて交流	
1		1年生B組授業研究会(22日)	○園正月遊び公開(30日)
2	小学校体験入学(10日) (1年生、5年生と年長児との交流②を兼ねる)	体験入学・入学説明会(10日) (1年生、5年生と年長児との交流②を兼ねる)	○園・小連絡協議会実務者会議Ⅳ (13日) ○園・小連絡協議会(日) ○園・小引継ぎ会(日)
3	卒園茶会 みささこども園(日) 賀茂保育園(13日) 小学校出前授業(日) 卒園式(25日)	卒業式(18日) 各園へ出前授業	

資料1



5歳児と1年生の「あきまつり交流」



5歳児と5年生の「5・5交流」



1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組

(1) 保育担当課と教育委員会で取組の方向性を確認

実務者会議 (令和5年度～)

【メンバー】

推進リーダー、1年生担任、年長児担任、
町民課（保育担当課）担当者、町教委担当者
幼保小連携コーディネーター

【内容】

- ・ 保育参観、授業参観後の協議
- ・ 架け橋期のカリキュラムの検討・開発

1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組

■重点的な取組（令和5年度）

- (1) これまで取り組んできた園小連携を基本としながら、園オープンウィーク及び園・小連絡協議会（実務者会議）を新たに設定し、育ちと学びのつながりを意識した情報共有・意見交換を行い、取組に生かす。
- (2) 令和4年度に改訂した接続カリキュラムをもとにした実践を行いつつ、架け橋期のカリキュラムへの発展を視野に、研修・協議・検証等を進める。

1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組

■重点的な取組（令和6年度）

- (1) 令和5年度に作成した成果物を用いた交流及び学びの見取りを行うとともに、子どもの育ちと学びのつながりを意識した園・小連絡協議会（実務者会議）による情報共有・意見交換を行い、架け橋期のカリキュラム開発を進める。
- (2) 園小の職員を対象とした研修会を開催し、園小連携・接続の考え方や方向性について職員の理解を促し、園小接続に係る取組を推進する。

1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組

(2) 架け橋期のめざす子ども像について協議

【園・小連絡協議会 開発者会議の開催】

「自分の思いを伝え、相手の思いに気づき、一緒に活動を楽しむ子ども」

1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組

(3) 架け橋期のめざす子ども像の実際

①共通の視点で

子どもの姿を見取る



令和6年度 「学校オープン（11月21日、22日）」
園小連絡協議会

参観者は、1年生を参観してください。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を指標にして、どのような姿が見られたか、その姿はどのような環境、支援によるものか等、気づいたことを付箋にご記入ください。※「1つの姿について、付箋は1枚ご使用ください。」

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

- 健康な心と体**
園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
- 自立心**
身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
- 協同性**
友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
- 道徳性・規範意識の芽生え**
友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくり、守ったりするようになる。
- 社会生活との関わり**
家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合いの中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えたり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
- 思考力の芽生え**
身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
- 自然との関わり・生命尊重**
自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに関わり、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたり、大切にすることを覚えるようになる。
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**
遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
- 言葉による伝え合い**
先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
- 豊かな感性と表現**
心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

よろしければ、所属とお名前までご記入ください。
所属（ ） お名前（ ）

1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組

②参観と対話をセットで実施する

【実務者会議の様子】



1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組

知識及び技能の基礎

- ・水着に着替える際、脱いだ服を丁寧に畳んでいる。
- ・すごろくの数、つった魚の数、サイコロの目を1年生と一緒に数えている。

先生の関わり

思考力・判断力・表現力等の基礎

- ・赤、黄、青を混ぜると茶色になる。お手本の茶色にするにはどうすればいいか試行錯誤している。
- ・大きな木の実をブローチにするためにどうするか悩んでいる。友だちと相談した結果、切ることに決めていた。

- ・「ぼくもやりたい」「〇〇くんはやってない」というつぶやきに反応して譲っている。
- ・「次の子楽しんでね」「はい、終わり～」と、やさしく声をかけている。

学びに向かう力・人間性等

金と言わずに、考えることができる言葉かけ
(方法选择) 自分で

提案型ではなく、考えを交わせること
できるお掛けかけ

子どもが気付いた時をのかさず、つないで

環境づくり

子どもが考えて動ける十分な時間

三朝町架け橋期のカリキュラム

育ちと学びをつなぐ
園小の連携・接続



三朝町のめざす子ども像
 ○自ら学び、身につけた知識や技能を活用できるみささっ子
 ○自分と他人の良さを認め、互いに尊重し合えるみささっ子
 ○命を大切に、健康でたくましいみささっ子
 ○ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもつみささっ子

接続期に大切にしたい力
 ・生活する力（見通しをもって行動する、自分のことが自分でできる。）
 ・人とかかわる力（まじりや約束を守る、自分の思いを人に伝える、友達と一緒に楽しく活動する。）
 ・自ら学ぶ力（様々な遊びや体験をする、友達や先生の話に関心を持つ。）

(5歳児) 連携 → 接続 (小学校1年生)

共通の視点として考えられる項目	4月・5月・6月	7月・8月・9月	10月・11月・12月	1月・2月・3月	4月・5月・6月・7月	8月・9月・10月・11月・12月	1月・2月・3月	
架け橋期のめざす子ども像	自分の思いを伝え、相手の思いに気づき、一緒に活動を楽しむ子ども							
園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等	春見つけ・草花遊び 野菜の苗植え	夏の遊び 泡・泥んこ遊び・色水遊び	シャボン玉遊び	秋見つけ 花植え	正月遊び 氷・雪遊び	がっこうだいすき(生活科) みんなであそぼう(生活科) きれいにさいてね(生活科) 色水遊び なつがやってくる(生活科)	いきものとなかよし(生活科) たのしいあきいっぱい(生活科)	もうすぐ2ねんせい(生活科) ふゆをたのしもう(生活科) じぶんでできるよ(生活科)
指導上の配慮事項	先生の関わり 【夏の遊び(泡、泥んこ、色水遊び)】 ○イメージ(想像)が膨らみ言葉かけ。 ○自分でやりたいことに取り組み姿を認めたり、できた喜びに共感。 ○めあてをもって挑戦する姿を見守り、葛藤や失敗したときの気持ちに共感し支える。 ○自分の考えや気づきを友だちに伝える場面で、状況を見守りながら、必要に応じて言葉を補ったり添えたり整理したりして伝わるように援助する。 ○夏の遊びの経験や楽しかったことを友達の前で話す機会を作り、イメージを伝えながら遊びに取り入れることができるようにする。		【正月遊び】 ○遊びが展開しやすいよう、材料や用具を取り出しやすいように準備する。 ○自分で調べたり、比べたり、試行錯誤できるように材料を準備する。 ○思いが伝わるように十分な時間を設けたり、披露する場を設けるなどして、互いの気づきを認め合ったり喜び合ったりできるようにする。 ○時間にゆとりが持てるよう生活の仕方を構成し、気の合う友達と一緒に活動を楽しめるようにする。		【みんなであそぼう】 ○自分で気が付いて動くことができる言葉かけや、ペア学習等を促す言葉かけ。 ○テンポの良い学習展開を意識する。 ○前時の感想等を次時に生かす。 ○書く活動での個別支援、書く量を調整する。 ○子ども達が経験をもとにイメージし、考えが浮かびやすくなる言葉かけの工夫をする。 ○ペア活動等で、自分の思いを伝える場、多様な考えに触れる場を大切に作る。		【たのしいあきいっぱい】 ○遊びのコーナーを自分たちで計画・準備できるように裏方に徹する。 ルールや遊び方、票品などについて自分たちで話し合っって決定する場を設定する。 ○園児との交流で主体的に取り組むために、自分たちが祭りを開催するという気持ちを高め、プログラムや巡回の方法も自分たちで考えられるよう支援する。 ○全員が一人一役できるように役割を工夫し、希望に沿わなくても責任をもって仕事ができるように配慮する。 ○相手意識をもつことができるような言葉かけをする。	
	環境の構成環境づくり ○地域のひと、もの、こと(標識や建物等)に気づくような言葉かけ ○お散歩マップを園全体で共有し、全園児が見られる工夫をする。	【散歩】 ○遊びが展開しやすいよう、材料や用具を取り出しやすいように準備する。 ○自分で調べたり、比べたり、試行錯誤できるように材料を準備する。 ○思いが伝わるように十分な時間を設けたり、披露する場を設けるなどして、互いの気づきを認め合ったり喜び合ったりできるようにする。 ○時間にゆとりが持てるよう生活の仕方を構成し、気の合う友達と一緒に活動を楽しめるようにする。		【散歩】 ○地域のひと、もの、こと(標識や建物等)に気づくような言葉かけ ○お散歩マップを園全体で共有し、全園児が見られる工夫をする。		【散歩】 ○遊びが展開しやすいよう、材料や用具を取り出しやすいように準備する。 ○自分で調べたり、比べたり、試行錯誤できるように材料を準備する。 ○思いが伝わるように十分な時間を設けたり、披露する場を設けるなどして、互いの気づきを認め合ったり喜び合ったりできるようにする。 ○時間にゆとりが持てるよう生活の仕方を構成し、気の合う友達と一緒に活動を楽しめるようにする。		【散歩】 ○地域のひと、もの、こと(標識や建物等)に気づくような言葉かけ ○お散歩マップを園全体で共有し、全園児が見られる工夫をする。
家庭や地域との連携	○愛園活動(環境整備) ○七夕の会 ○らまき作り(祖父母、地域協議会) ○花の苗植え				○通学路探検 ○シャボン玉遊び ○虫博士 ○凧作り ○秋まつり ○自分でできるよ(お手伝い) ○昔遊び交流会			
振り返り								

三朝町架け橋期

育ちと学びを
園小の連携

共通の視点として考えられる項目
架け橋期のめざす子ども像
育みたい資質能力
学びや学びのプロセス
園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等
指導上の配慮事項
先生の関わり
環境の構成環境づくり
子どもの交流
職員との交流
家庭や地域との連携
評価

1 幼児教育と学校教育を「つなぐ」取組

②参観と対話をセットで実施する

令和5年度

学校オープン（9/21,9/22）

→実務者会議Ⅰ

園オープンウィーク（10月末）

→実務者会議Ⅱ

令和6年度

スタートカリキュラム期の授業公開（参観後は園ごとの情報交換）

1年生授業公開（6月） → 実務者会議Ⅰ

1年A組授業公開

園オープンウィーク（8月） → 実務者会議Ⅱ

学校オープン（11月） → 実務者会議Ⅲ

1年B組授業公開

正月遊び保育公開（1月） → 実務者会議Ⅳ

推進リーダーの声

- 園での体験が小学校のどの教科につながっているのかを知ることができた。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」で保育を振り返ることができた。園でしていることや発達の過程を小学校の先生方に伝えることができた。
- 園と学校の先生が一緒に話し合ったり学んだりすることで一体感を得るとともに、子どもだけでなく大人も教育も「つながる」ということを実感した。

推進リーダーの声

△園内、校内で子どもたちに関わるすべての職員に、町の取組や架け橋期のカリキュラムについて伝えていくことの難しさを感じる。今後、各園、学校の教職員への周知の方法について検討していく必要がある。

2 幼保小連携コーディネーターの役割

- ・三朝町園・小連絡協議会で実施する交流活動のコーディネート
- ・町民課（保育担当課）と教育委員会のコーディネート
- ・経験をもとにした情報提供、提案
- ・カリキュラム作成の実務を含めた役割分担

3 取組の成果と今後に向けて

【取組の成果】

- 以前から取り組んできた連携がバージョンアップされた
 - ・三朝町の連携スタイルが確立されつつある
 - ・共通の視点をもつことにより、見取りを焦点化できた
 - ・「教育をつなぐために必要である」という認識で交流ができた
(保育士等・教職員の意識の変化)

3 取組の成果と今後に向けて

【取組の成果】

○互いの教育を知るには「対話」が必要だと分かった

- ・互いの取組を尊重するとともに、それぞれの保育・教育に生かそうとする意識が芽生えた
- ・園小で内容が重なる活動、経験のつながりを相互に確認できた



「知っていることって結構あるんだ」

「生活の中で、説明しなくてもいいことってたくさんありそうだ」

「自分たちで声をかけあいながら、こんなにできるんだな（生活発表会）」

3 取組の成果と今後に向けて

【今後に向けて】

- ★作成した架け橋期のカリキュラムを活用しながら園小の接続を実施する
- ★園小ともに、架け橋期のめざす子ども像とのつながりを常に意識する
- ★子どもの姿から、関わる大人の教育内容や教育方法を評価し、次年度につなげていく
- ★日常の保育や授業をとおして対話する機会を確保する

3 取組の成果と今後に向けて

【今後に向けて】

★幼児教育と学校教育の違いや共通点、それぞれのよさ等

についての理解を進めるための研修機会を確保する

★園内、校内体制を整備する

(すべての先生方の理解と協力、個人

に依存しない持続的な体制づくり)





ご清聴ありがとうございました